

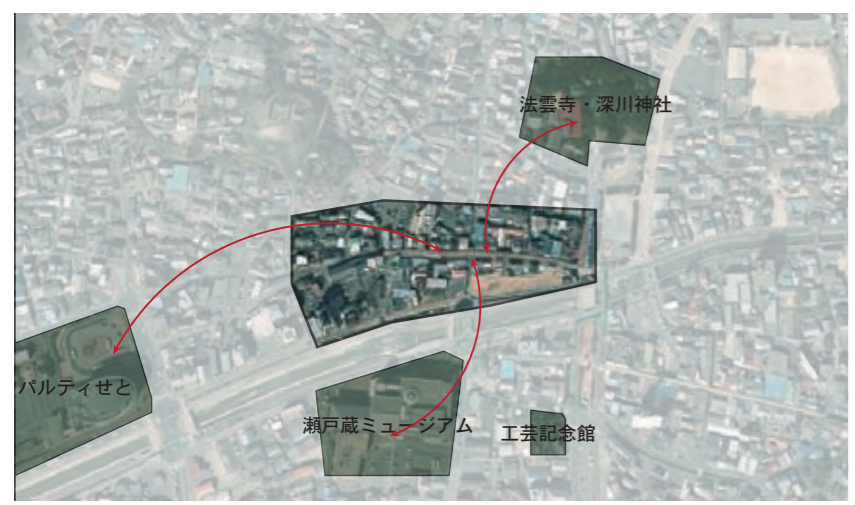


## 街の屋根 × 暮らし

現在日本全国に沢山存在するアーケードのかかったシャッター街が存在する。昔は雨のかからないアーケードの下で商いをし賑わいをみせ、コミュニティを作っていた。しかしシャッター街になった今、アーケードの屋根は日の光や風を遮り、通りに暗い印象を与える原因になってしまった。そこでアーケードの屋根をポテンシャルとして残り、プロトタイプ住宅を提案する。日があたり、風が通る屋根の下では植物が育ち、人々が散歩に訪れ、ベンチが置かれるとそこは休憩所となる。公園の様な屋根のかかった通りでは昔とは違う形でコミュニティが生まれそこはこの街の屋根になり、新たな記憶をつくる。

## 敷地説明

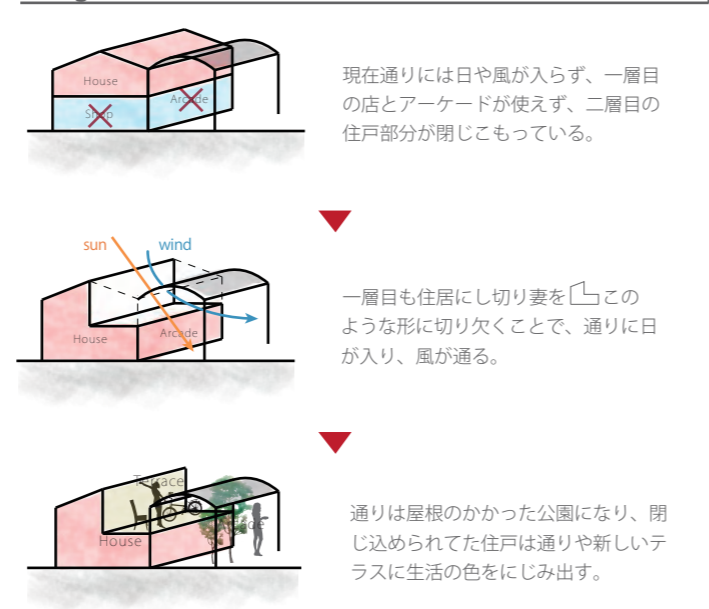
計画地は愛知県瀬戸市尾張瀬戸駅付近の銀座商店街。瀬戸市はかつて瀬戸物と呼ばれる陶器で街が発展してきた。今観光地として駅周辺にいくつか瀬戸物の記念館などが建てられている。その建物達と呼应して祭りやイベントを行い、住民と密接に関わることのできる



## concept



## diagram



## after plan プロトタイプと住宅が増えてきた時の暮らし方の変化

